

令和4年産 紀南の梅産地情報

2022/07/26

「生産概況」

1. 今年の南高の開花期間は26日間と平年より5日程度長くなり、満開期は2月26日と平年より12日程度遅くなった。授粉樹との開花はほぼ揃い、満開期以降の天候も安定した日が多く授粉環境が良好であった。収穫前の定点着果量調査では着果量は前年並みで、平年より多かった。

出荷は小梅で5月10日、古城は5月20日、主力の南高は5月28日からそれぞれ始まった。4月中旬・5月中下旬は平年を上回る降水量があったが、5月の気温が低かったこと、6月の降水量が少なかったこともあり肥大が鈍化した。前年と比べ小玉傾向であったが、着果量が多かったことから本年産の取扱量はほぼ前年並みとなった。病害虫については特に目立った発生は無かった。

2. 生産量は、小梅は前年・平年並み、古城は前年・平年より少なく、南高は前年よりやや少なく、平年並みの見込みとなっている。

7/26日時点（生産見込量：トン）

品 種	4年産	3年産	平 年	前年比	平年比
小 梅	837	827	779	101%	107%
古 城	368	441	545	83%	68%
南 高	20,809	23,014	21,738	90%	96%
在来系	400	487	478	82%	84%

「安全・安心対策」

J A紀南の安全・安心対策は20年目に入り、全出荷者の生産履歴の安全確認、生産者毎の出荷物サンプル保管、農薬残留分析、GAP（農業生産工程管理）の自主点検を実施した。

「産地の課題と方向」

近年予想を上回る気象変動の中で、梅生産・農業経営面においては作柄を安定させることが最重点課題となる。山畑等不安定園地での授粉対策や品種の見直し、老木園の改植を積極的に進めることが重要である。